

---

# ツレツレなるまに ~冬~

Wonder Forest

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ツレヅレなるままで～冬～

### 【著者名】

ZZコード

ZZ837Y

### 【作者名】

Wonder Forest

### 【あらすじ】

何時もどおりの日常にて、少しスペースが入ったお話の3部目です。

「ねえ、あの人、モテルさんかな？」

「外人さんって皆あんなに綺麗なの？」

「やべえ、俺声掛けてこようかな」

店にいた客たちが口々に言つた。

西洋な顔立ちに似合わない、いや、一種の幻想的な空氣さえ漂わせる真っ黒な髪に、ビー玉より透けた青い目の女性が5分ほど前から、店でただじつヒビにかを見ている。

そんな噂の渦中に人に、バイト上りの僕は声を掛ける。

「『めん、待つた？』

殴られた、痛くはないけど。

「おせえよ、どんだけ待たせんだよ」

「だから、終わったら連絡するって言つたのにー。」

「うっせえーたまたま通りかかったんだよーー。」

周りの人たちが、その綺麗な声から出でてくるとは思えない言葉に、びっくりした顔でいる。

「ほら、周りの人たちが驚いてるよ？」

「ああ、？」

威嚇的に周りを見る、さつと田線を逸らす人たち。

「まあいいんだよ」

千冬は、向き直る。

「んで、もついいのか？」

「うん、大丈夫ークロワッサン今日は焦げちゃったから、メロンパンで許してねー」

「は？ふざけんなよ、一一三三こめえ、しつかりしりや」

「じめんねー」

「もついいわ。とりあえず帰るわ」

手を強く引っ張られながら店を出てゆく。密は田を丸くしたまま。

手を強く引かれたまま、家についてそつそつと戻われる、

「ほり、わざと風呂入れよ。またねえんだよ。」

「うんー。一緒に背中流しちょー」

「ふざけんな、入りたきや 一人で入れ。せめえんだよ」

「そうだけどー、一人の方が楽しいのになー。」

そう、言いながら脱衣所に入っていく。

頭を洗うてしるといふかして半冬か入るべく

「てめえ、ちゃんとシャンプーハット着けろって言つてんだろ！」

頭を洗つてゐる状態でシャンプー・ハッピをはじめる。

「あー、ちよ、お前しきりしろ！！」

慌ててシャワーを畳に掛てる、蛇口全開で。

「ちょっと狭いだろ、——、出うよ」

「向かって呟わなごで、 うへりおこでよー

おこでおこでやる。また殴りられる。

「尚更、狭くなんだわ」

とか言いながら、角度を反転させる千冬。

思わず抱きしめて頬擦りしきやつ。

「やめやつ」

あ、可憐に転出た。

「やめやべ・・・」

真つ赤にした千冬、「可憐です。」あ、転出た。

千冬がもつと真つ赤になつた。

「・・・・・いつかべ。」

小さく、千冬は言葉を返した。

「つたぐ、なんでこの家は、布団が一枚しかねえんだよ。」

千冬が愚痴をいじぼる。

「いいんだよー、僕、ソフナーで寝るからー」

「ふざけんな、家主が布団で寝なつてどうすんだよ。」

「えー？ 千冬ちゃんをソファーで寝かせられないよー」

「それこそふざけんな、私も布団で寝るんだよ」

いよーすけ、なるほどね。枕の代わりのケツシミンとれても使いてい

千冬は迷わず僕の腕を取つて、

「お前の腕枕で、いいんだよ」

「明日午冬ちやんお休みなのこ、僕休みじやなくでごめんねー」

「は？私がお前のところ行つて、パン食つてれば、デートだろ。」

「わー来てくれるんだー! 明日は頑張つて焼くねー」

「全くだ。畠山はちさんと何れよー。」

うん。・・・千冬ちゃん大好き！」

あまりの愛しさに抱きしめる。

「・・・！私は大嫌いだよ！！」

千冬は顔を上げて、唇を重ねる。

「嘘だけど」

最後の言葉は、消え入りそうな声で。

「んふふー」

「あめえんだよ……寝るぞ……明日も早いんだー。」

きっと、千冬がまた顔を真っ赤にしてるかと思つたら、含み笑いが  
中々抜けなかつた。

## 前編（後書き）

どうも、始めてだつたり、ここにちはの人もいるかな?  
わんだーふあれすとです。

お楽しみ頂ければ幸いです。

このお話は2編で終わりますので、次が後編です。

次予定：11/21

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3837y/>

---

ツレヅレなるまに～冬～

2011年11月20日10時38分発行